

東京石見高山会



11月20日、東京石見高山会の総会出席の為、郷土・大代町からの一行13名は19日夕方19時出発、中国・名神・東名高速道路を夜行便にて一路東京へ向いました。アルコールも入って一時は気勢も挙っていた様ですが、さすが長旅、疲れも出て深夜の車中はひっそりと静まり、翌朝築地本願寺に到着したのは九時前でした。

どちらを見ても見上げる程のビル街、朝の慌しい車の往来、出勤のラッシュ、途端に大都市の混雑に出合っ、戸惑い気味。迎えの佐藤事務局長の顔を見てやっと何か落ち着きを取り戻した様でした。

一部都内の観光も済ませ、午後一時から石見高山会の総会が始まり、田中会長の挨拶、大田市から参加の石田市長の講演や大田市の紹介などがあり、

会場は次々と参加の人達で一ぱいにふくれ上がり懇親、交流の会は大変な賑わいでした。

会場受付には植松出身。鳥トヤオ尾さん 窪田さん、上飯谷出身の竹内さん、下市出身の松本さん、上市出身の山根さんなど見覚えのある懐かしい顔が懸命に奔走していられた様でした。

部屋に落付いた時はすっかり暗くなつた頃か?? 楠義見さん(上飯谷・旧性・原田)のご案内で二次会に出かける始末、何かと東京の皆さんにご負担を懸けてしまいました。

翌二十一日、中央高速道路から高井戸を経て昇仙峡の観光へ、更にサントリーワイン博物館——武田神社(信玄公)——善行寺——宝石館などを見学致しました。

昨年とコースが変わり中央高速道路から見上げる富士山は天気にも恵まれた上、距離も近く積雪もあつてか、青天にそびえた真白い雄姿に思わず感嘆の聲が上がりました。日本アルプスの峻しい山々も見る事が出来、参加の意義が大変深かつた事を感じました。特に昇仙峡の奇岩、景観は説明のつ

かない素晴しさ、この地に産出する水晶の資源は市や町の財政に大きな富をうるおしているのではないのでしょうか。巧みな商法によって皆さんの御土産品も亦うるおっていた様でした。

ワインの名産地として名高い山梨のぶどうは収穫の時期は既に終っていた様ですが、その原料となるぶどうとは、生のものをしぼって作るのではなく、枯れ干しになつた様な実が原料となるとの事に一寸驚きでした。

今回の参加を通して私達が見聞したものは大変貴重な研修をしたことにもなつた事と思ひます。

(主事・松井 幸記)

励まし、声かけ、支えあう
—福祉の町づくりをめざして—

民生児童委員 渡 淳

二十一世紀も指呼の間に迫り、人口の高齢化はハイスピードで進行しています。

当町民生委員の調査によると、六十五才以上の人口は三〇・二%と、大田市の十九%を遙かに越え、ひとり暮らし老人三十三世帯、ねたきり老人五人

等、今後痴呆性老人、ねたきり老人、独居老人、老人夫婦世帯等高齢者に対する対策が大きな問題となっています。わが国は経済的発展により国民所得も増え富める国となりましたが、国の繁栄とは裏腹に社会福祉関係予算は年々厳しさを増し、今日高齢化社会の進む中で、社会福祉施策は地域福祉、在宅福祉転換へと大改革が進められています。

このような状況の中で、各地域における在宅福祉推進は、ねたきり老人や痴呆性老人と、その介護者への援助活動、あるいはひとり暮らし老人への友愛訪問、栄養強化等地域に根ざす民生委員を核として、地域の皆様の協力を得て進めています。更に十分な成果を挙げるには、地区社会福祉協議会、各自治会、婦人会、老人クラブ、青年団小・中学生等によるボランティアの人たちによる協力助けあい運動の中で推進しなければならぬと思います。

近隣の相互扶助、隣り近所の人たちからの「励まし」「愛の声かけ」「愛の支え」、そうした近隣のネットワークを地域に築くことが大切であると思

います。

障害者や高齢者など福祉問題を抱える人々が、安心と安全とぬくもりをもって生活ができる「福祉のまちづくり」に努力し、住んでいることに誇りのもてる福祉の町づくりを目指したいものです。

上手なお酒とのつき合い



大田保健所

お酒は昔から悲しみにつけ、楽しみにつけ人生の友として親しまれてきました。

大抵の家庭にお酒が置いてあります。適度の飲酒は心身の健康増進をもたらし、消化を助け、新陳代謝を盛んにし又気分を明朗にし、身体を暖め心地良い眠りにつけてくれます。

しかし飲みすぎると吐気、動悸、めまい、頭痛などの不快な症状、あなたも経験されたことがあるでしょう。あの二日酔いです。それが過ぎると最悪の場合は気を失ったり呼吸機能がマヒし死に至ることもあります。

アルコールを飲み続けると(一日二

合以上三〇年)アルコール依存症となり、身体的にも心理的にもアルコールがないと生活できない状況になってきます。最近ではアルコール依存症の人が増加しているといわれています。

酒と上手に付合うには

1. おちついた気分で自分のペースでのむ。
 2. 酒量は一日一合ぐらいにする。
 3. 毎日続けて飲まない(週二日酒なし日)。
 4. 強い酒はうすめてのむ。
 5. 酒の肴を十分にとる。
 6. 酒をのんだ時はそのカロリーだけ炭水化物をへらす。
 7. 運転する人には酒をすゝめない。
- 以上、酒は上手に付合えば、気分をそう快にし楽しい人生が送れます。

(岩谷)

おしらせ

◆赤ちゃん誕生おめでとうございます

上飯谷 武田尚彦
同 優子 } ヌカスケ 祐亮君

◆下市 佐藤京子様
先般多数の書籍、御寄贈頂きました。